

第3回 杉並区立天沼中学校校舎改築検討懇談会

会 議 名	第3回 杉並区立天沼中学校校舎改築検討懇談会
日 時	令和7年6月16日（月）午後2時00分～4時04分
場 所	天沼中学校 視聴覚室
出 席 者	懇談会委員18名（欠席4名）
傍 聴 者	0名
次 第	1 第1・2回懇談会の主な意見等について 2 さざんかステップアップ教室併設について 3 改築基本方針（たたき台）について 4 改築規模及び諸元について
資 料	資料1 天沼中学校の改築についての意見 資料2 さざんかステップアップ教室併設について 資料3 改築基本方針（たたき台） 資料4 天沼中学校の生徒数・学級数の推移について 資料5 中学校の標準建物面積について 参考資料1 天沼中学校改築への意見・提案について(写)

進行役	それでは、これから第3回天沼中学校校舎改築検討懇談会を始めさせていただきます。 本日は1名の委員がリモートでのご参加、また、5名の委員から欠席の連絡を頂いています。また、私も冒頭だけで、この後出張に出てしまいますので、この後の司会は副校長に変わらせていただきます。本当に大変申し訳ございませんが、よろしくお願いいたします。 懇談会は2時間を目安に進行させていただきたいと思います。進行にご協力いただければと思います。 今日は、この懇談会終了後にさざんかステップアップ教室天沼教室の見学を予定しておりますので、可能な方はご参加いただければと思います。 それでは、配付資料の確認を事務局からお願いいたします。
教育施設計画 推進担当係長	事務局でございます。 まず、配付資料の確認をさせていただきたいと思います。

	先日お送りした資料が全部で7点でございます。本日の次第と資料1「天沼中学校の改築についての意見」、資料2「さざんかステップアップ教室併設について」、資料3が「改築基本方針（たたき台）」、資料4が「天沼中学校の生徒数・学級数の推移について」、資料5が「中学校の標準建物面積について」、最後に参考資料1として「天沼中学校改築への意見・提案について（写）」をつけております。 また、席上には本日の席次表と感想シートを置かせていただいております。 配付資料については以上でございます。 今日の懇談会から、関係課として、防災課と営繕課の職員、それと設計事務所の方が参加します。それでは自己紹介の形でお願いしてもいいでしょうか。
	(事務局自己紹介)
進行役	それでは、次第の1番「第1回・第2回懇談会の主な意見等について」ということで、事務局からご説明をお願いいたします。
教育施設計画 推進担当係長	事務局でございます。 資料1を御覧ください。 こちらは、第1回・第2回の懇談会で、アンケート、意見を頂きました。あと、学校からも意見を頂いております。そのほか、メビウスでも意見をお寄せいただいております。 それらの資料を見まして、今後検討する改築基本方針に関連してくるような、重要というか、そういったフレーズを中心にまとめさせていただきました。 この間、皆様からはより具体的なお提案やご希望も多くお寄せいただきましたけれども、改築基本方針では、この間、具体的な取組にはあまり付言せず、それらを包含するような表現を使ってまとめておりました。そのため、その点についてはご了解いただければと思っております。 それでは、ご意見の紹介をさせていただきたいと思います。こちらで幾つかグルーピングをさせていただきました。 まず、コンセプト的なフレーズです。こちらには「みんなが幸せに共生できる空間」とか、④「子どもを一番に、中学生が主役の学校」と、これが教育環境にも共通してなのですけれども、生徒を中心に、子どもを中心にといった意見が多くあった印象でございます。 ⑤「地域やさざんか教室が納得できる改築」というのもありました。より多くの方のご理解を頂いた改築としたいという思いかと思っております。

	また、⑥「私立への進学傾向を跳ね返す魅力ある設備、子どもが通いたいと思う学校」ということで、限られた予算ではありますが、公立の魅力を最大限引き出せるような学校にしたいということかと思いました。 ⑦「将来を見据えて本当に必要なことを見極める」。改築後 80 年間使用する建物になりますので、この視点は重要だなと考えます。 ⑨「学校教育と社会教育の融合する施設」ということで、地域との関わりというところにも共通する取組になるかなと思いました。 そして、⑩「豊かな学びをかなえる校舎」ということで、最も重要な内容かなと思いました。 続いて、「教育環境」でございます。教育環境については、とても多くの意見を頂きました。 ①「子どもたちの居場所の確保」、②「安心・安全に学べる学校」、③「健康・健全に過ごせる学校」、④「余裕のある学級数の設定」、⑤「汎用性のある設計、効率的な空間使用」、⑥「可動性・対応力のある教室」、⑦「風、光が通る（明るい）学校」、⑧「最先端技術を取り入れた学校」というのもありました。 また、⑨「配慮が必要な子に対応できるスペース」ということで、学びの教室や別室登校、日本語ができない生徒が来たときなども関連してくるかなと思います。 ⑩「生徒の安全確保・警備体制」というのもありました。先日の立川市の事件もありまして、杉並区の中学校でも電子錠の設置の準備を今進めているところでございます。 ⑪「将来の変化に対応できる施設」ということで、⑤や⑥とも共通する内容かなと思います。 あとは、⑫「教職員の皆さんの働く環境の整備」ということでございます。杉二小にはこういったスペースがあると聞いております。 ⑬「学年活動ができる複数の場所」。杉二小とか松溪中学校を見に行ったときに、そういったスペースがありました。そのほか、多目的室なども想定できるかなと思います。 ⑭「広い校庭・広い体育館・人工芝」。敷地面積が限られるのですが、そこは工夫をしていけたらいいかなと思います。 少し飛ばして、⑮「天中といえは廊下のベンチ」というご意見も頂きました。松溪中へ見学に行ったときのラウンジとかメディアスペース、テラスなどありますが、天沼中も昇降口の横とかに木製の机ですとかべ
--	--

ンチがあったりして、集えるスペースになっていると思います。そういった空間というか、そういう工夫ができるといいのかなと感じました。

⑩「勉強に集中できる教室」ということでした。杉二小で教室の廊下側の壁がガラス張りになっていました。その感想として、勉強に集中できないのではないかという懸念の意見がありました。そこから関連するところかなと思います。

あとは、「校舎配置」に関するご意見等でございます。校舎の配置ですとかフロアについてのご意見、工事車両への懸念などの意見がありました。

また、プールについての意見も様々ありました。プールの関連でいいますと、水泳に授業の実施についてというところはとても重要になってくるかなと思います。こちらについては学校の意向も確認しながら検討していく必要があると思っております。

あとは、視察に行った杉二小の印象もここにも記載させていただきましたが、⑩ですけれども、「杉二小は敷地の特徴を生かした設計、教室と廊下の間の壁は透明」で、ここには記載しなかったのですが、たしか「コンクリートの打ちっぱなしの感じで、クールな感じ」という委員もいらっしゃいました。

⑪「松溪中につきましては開放的、多様な交流を育む工夫、木の壁で温もりを感じた」という意見もありました。

続いて、「地域とのかかわり」でございます。学校が、地域の方々が集い、その活動の拠点となるようにとの思いが多く聞かれました。杉並第二小学校では、将来の諸室の開放を見据えて特別教室を地下1階と1階に集約をしていました。

続いて、「さざんか教室」でございますが、さざんか教室につきましては、天沼教室と荻窪教室の併設について不安の意見、心配という意見がありました。また、併設に当たっての要望というのもありました。さざんか教室につきましては、この後、教育相談担当から改めて説明していただきたいと思います。

最後、「防災・防犯」でございます。

発災時の防災拠点として必要な設備や備蓄品など、あとは、不審者対応など通常時のセキュリティ強化などについての意見がありました。

以上、カテゴリーごとに意見の一部を紹介させていただきました。

これらの懇談会委員の皆様から頂いた意見等を参考にしながら、基本方針を検討していきたいと思っております。こちらを考慮しながら私のほうで

	たたき台を取りあえず考えたものを後ほどご説明させていただきたいと思います。 次第の１、主な意見等につきましては以上でございます。
進行役	今、事務局から説明がありました、１回目、２回目の主な意見等について、何かご質問等ございますでしょうか。よろしいですか。こういう意見が反映されていないとかもしあれば、今のうちのというところではありますが、よろしいでしょうか。 では、続きまして、次第２の「さざんかステップアップ教室併設について」ということで、それでは担当課長からご説明をお願いいたします。
教育相談担当 課長	改めまして、こんにちは。済美教育センター教育相談担当課長です。本日は貴重なお時間を頂きましてありがとうございます。着座にて失礼いたします。 今、教育施設計画推進担当係長からもお話があった資料の中に、さざんか教室について、様々皆様からご意見を頂き、本当に一人一人がさざんか教室がどうあるべきかというのを考えていただいているというのが伝わってきました。本当にありがとうございます。 その中で、皆さん、もちろん教室に通っている保護者の皆さんをはじめとして、職員の方々にすごくご不安な思いを抱かせてしまったというところは本当に申し訳なく思っております。大変申し訳ありません。 皆さんに配付しました資料にもあるとおり、経緯としましては、旧若杉小学校の本格活用に伴い、荻窪教室を移転するといったときに、どこに移転するか、移転先がどこでも行けるわけではありませんので、候補地ですとか、そこに書いてあるように、この建て替えに併せて天沼中学校の敷地に建てるのがどうだろうかということを様々併設の可能性を令和５年度から探ってきたところでございます。 令和６年度に移転先としての候補地もあったのですが、なじみのある場所ということ、また、今ある天沼教室及び荻窪教室が活動するには少し場所的にも十分ではないと、そういった課題等もありまして、しっかりそういったことが確保できる、また一からどういった環境が適切なのかというのもしっかり検討できるということで、このたび併設を選択したという次第であります。 ここについては、第１回目での説明では十分ではありませんでしたので、先週、荻窪教室の保護者の皆様にお集まりいただきまして、お話をさせていただいているところです。 保護者への周知というところで、ここは本当にもう申し訳ありません

とおわびするしかないのですが、これまでの経緯がどのように保護者に伝わってきたかといいますと、2024 年の 12 月と 2025 年の 2 月、この「t e t o r u」という連絡配信アプリにてお伝えするにとどまっております、これまで十分なやり取りが全くできていないということが分かりました。

それも踏まえて、先週行われた保護者会の中では、しっかりこれからどんなことができるのか、教室環境、また運用方法等々、こういったことが求められるのかというのを一緒に考えていきたいと思います。その保護者会を機に、今後、これまでできていなかった部分、連携をしっかりと取りながら、保護者の皆さん、そこに通っている児童・生徒、そして職員、みんなの意見をしっかりと聞きながら進めていきたいとお話をさせていただいております。

少しさざんかから話はそれてしまうのですが、杉並区の不登校支援ということで、今杉並区で行っている支援を 1 つのページにまとめてみました。今、不登校施策様々ありまして、果たしてそれぞれの内容、目的が困っている児童・生徒に届いているのかどうか、この不登校施策がそれぞれ子どもたちの多様な背景、子どもたち一人一人のニーズにしっかり届いているのかというのを整理する、そういった意味で今一体的な見直しも担当として取り組んでいるところでございます。

さざんかステップアップ教室だけではなくて、様々な取組が不登校、また不登校傾向の児童・生徒の支援にしっかりつながるようにしていきたいと考えております。その中の 1 つとして、さざんかステップアップ教室もございます。今回はさざんかステップアップ教室についてのお話をさせていただきますが、せっかくの機会でしたので、こういった取組をしているということで、皆さんにご紹介をさせていただきました。

次のページ、今後のスケジュールですが、第 1 回で配られた資料を簡単に抽出して、それぞれ天沼中学校、荻窪教室、天沼教室がこういった流れで令和 13 年度を迎えるかというのを 1 枚にまとめてみました。

仮移転先については、荻窪教室、天沼教室についても現時点では未定ではございますが、そこについても決まり次第、保護者の方、職員、みんなに共有しながら、みんなで納得して先に進めていけるようにしていきたいと思っております。

次のページからは、今回、第 1 回、第 2 回の懇談会でアンケート等で頂いた意見にも関わってくるかと思いますが、皆様から寄せられた声について、こちらの考えをお示しできたらいいなと思っております。

まず「併設理由」ですが、先ほどもお伝えしたとおり、場所の問題もありますし、今使っている教室が十分な活動を確保するには難しいといったような現状を踏まえまして、これまではパーテーション等で区切ることで個々のスペースを確保したり、教室のレイアウトを工夫したりして、その都度できる活動に対応して、安心できる場づくりというのは両教室とも行っていると考えています。ただ、今回、2教室分のスペースを確保できることですか、あとは、個別の支援室等を設けることなど、より児童・生徒一人一人の多様なニーズに対応できるのではないかと考えてございます。

ただ1点、小学生・中学生がいつも一緒に同じ部屋でということではなく、そういった部屋の在り方も含めて検討していきたいと考えております。

続いて、学年を超えてつながる機会というのはもちろんこれまでも大切に行われてきましたが、今後は社会的自立に向け、幅広い年齢層の児童・生徒が同じ空間で過ごす、これは常にではなく、必要に応じて同じ空間で過ごすことでさらに多様な視点から自分や他者を見ることができるようになるのではないかと、こういったことを期待してございます。

四角でくくらせていただきましたが、「よりよい学び、つながりの場」というのをこれから、保護者、児童・生徒、職員、そしてここにいる懇談会の皆様と一緒に考えていきたいと思っております。

続いて、「学校の敷地内にあると通えないのでは」というご意見、こちらのアンケートにもございますとおり、そういった心配があることは本当にごもつともだと思っておりますが、これまで行ってきた「個々の実態に応じた柔軟な対応」や「安心して過ごせる、学べる場」に加えて、先ほどお伝えしたとおり、多様なニーズに応えることができるような環境整備をしっかりと行っていきたいということで、一人一人の思いが成長に寄り添う教室を目指していきたいと思っております。

この後、敷地内に建てることでの配慮事項については触れさせていただきますが、自分なりに学び、自分なりに必要なつながりを持てる場というのをつくっていききたいなと思っております。

続いて、「学校内に併設する場合の配慮」ということで、先ほどお伝えしたとおり、学校というところに不安感を抱く児童・生徒がいるということも考えられますので、これから検討する中で、通常の学校施設、メインとして活動する場所と区別され、独立で運営できるような形というのが望ましいのかなと考えています。

	また、安心して自分自身を表現できるように、外からの目が気にならないということも大切なポイントかなと思っています。ですので、学校内に併設する場合は、安心した学びにつながるができるような場、これが大切になってくるのかなと思っています。 最後です。「体を動かす機会の確保」ということで、現在荻窪教室に関しましては旧若杉小学校を使用しておりますので、比較的ほかの3教室に比べ体育館の利用等が柔軟にできる状態でございます。 ここに書いてあるものを全てやるとか、これしかやらないということではないのですが、私なりに、担当なりに考えたときに、体を動かすこととともに、何かみんなと一緒につながることができるとか、気持ちが晴れやかになるとか、何か体を動かすことプラスアルファができるといいなと思って、このような形でお示しさせていただいたのですが、アンケートの中でも頂いたような「運動場所は周辺の資源も活用」というのは、本当にそのとおりだと思います。幅広く活動できる場所はどんなところがあるのかは今後しっかり検討していく必要がありますし、ここに頂いたご意見のとおりで感じております。ですので、教育委員会としても工夫して、子どもたちの学びやつながる場、特に体を動かしたいという小学生の思いを少しでかなえられるようにしていく必要があると強く感じているところです。 簡単ではございますが、私からは、これまでの経緯、そして、皆様から寄せられた声に対しての教育委員会としての考えをお示しさせていただきました。 私からは以上です。
進行役	ありがとうございました。 それでは、ただいまの説明にご意見のある方は挙手をお願いします。 では、委員、お願いします。
委員	このさざんかステップアップ教室に関してなのですが、今の説明ですと、旧若杉の施設は不十分だからという説明がありましたけれども、天沼中学校に移した場合に、それが可能なのですか。つまり、副校長にお伺いしたいのですけれども、今この体を動かす機会というのはどこでできるかという体育館だと思うのです。体育館というのは、どのくらい空くのですか。空き時間というか。
進行役	ありがとうございます。 体育館がどのくらい空くのかと言われて、天候等にも関わりますので、具体的に何時間という言い方はできないのですが、いわゆるさざん

	か教室の子たちが、ほかの生徒の目に触れて活動するということをあまりよしとしない傾向があるとは思いますが、そういった動線の確保ができれば、例えば1日に1時間使うとかということについては可能であるかなとは思っています。
委員	ありがとうございます。 それと、最初の説明のときには、これだけのスペースというか、すごく少ないスペースみたいな案内でしたよね。だけれども、今の説明をあれすると、それでは足りないわけですよね。果たして、天沼中学にこれだけのスペースを確保できるのかなというのは、単純に疑問に思ったわけです。 後で配置だとか何とかという話になってくると思うのですが、少なくとも今の建物よりも要するに減築ですよね。今教室がたしか4階までありますよね。今の教室のところは恐らく3階までできるのだと思うのですけれども、この西側に関しては3階はできないと思うのです。もともと3階を造ろうと思って反対されたわけですから。 そうすると、より狭いスペースになったところで、さらにステップアップ教室の部分を取るというのは非常に、単純に考えただけでも疑問に思うのですが。単純にそう思いましたので。 以上です。
進行役	ご意見ありがとうございます。 ほか、いかがでしょうか。 では、委員、お願いします。
委員	ありがとうございます。さざんか教室の保護者です。 質問に対してこのように紙を作っていただいて、保護者会も開いていただいて、本当にありがとうございます。 本当にさざんかのこの件に関して、保護者の方とかともしゃべったりとか、意見書を作ってくれた方もいたりして、本当に場所があるのかというのは、委員が言ってくださったように、今より広くはならないだろうし、この間の会議でも出たのですけれども、さざんかの小学生、今は4年生から6年生しかいないのですけれども、本当は1年生から通える場所であり、今はまだ4から6年生だから同じ教室で過ごせているけれども、下の学年の子が入ってきたりしたときに、その子たちもみんな同じ教室で過ごすのかといたら、発達とかの観点で1年生と6年生は全然違うし。 さっき体育館が1時間1日使えるかとも言ってくださったのですけ

	れども、それでも、学校とかでも 1 年生の運動と 6 年生の運動と中学生の運動は全然違うだろうし、公立の小学校だったり中学校が当たり前を持っているような環境というか、休み時間に校庭で遊べるとか、体育の時間に体を動かせるというのが、多分それは恐らく確保されないのかな、運動する機会とかというのは減ってしまうのかなというのは感じたということと。 あと、この「併設理由」のところでも、「生徒が同じ空間で過ごすことで」とあるのですけれども、常ではないということだったのですけれども、生徒さんたちがふだん別の教室で過ごしていて、一緒に遊ぼうという時間があるのか、ある程度、小学生も中学生も同じ空間になるのかというの、まだ決まっていないということだったので、それも心配なのと。 あと、地域に開かれた天沼中学校にするとしたら、さざんかの子というのは学校に行きたくないとか、行けなくなってしまった子たちであって、でも地域に開かれた中学校に併設されるとなると、建物のことは分からないのですけれども、そういうふうに建てることのできるのかなというのを疑問に感じてしまいました。
進行役	ほか、いかがでしょうか。
委員	さざんかのことで、天沼中全体の改築の会議なのにすごくいつも時間を取っていただいてすごく申し訳ないと思っているのですが、1 つは、今、スペースを広く取って、2 教室分とおっしゃいましたけれども、本当に取れるのかということが 1 つ。だって、今ですらいろいろなことで、天中自体もかなり、要望でいろいろな教室、場所が欲しいというのがある中で、ある程度学校とは独立した建物というか、すごく難しいと思います。独立しながらも使わせてもいただけるような、そんな便利な建物が建つ空間があるのかなということが、1 つすごく疑問に思います。防災とかいろいろなことも含めて、いろいろな空間をどう造るのか。今のところどうも併設ありきという前提で全てが進んでいる気がするのですが、そこら辺の疑問について、本当に検討していただきたいというのは基本です。 それともう 1 つは、もしもありきで動かないということであるならば、ここに出てきた議論を踏まえた建物の設計というか、考え方というのをぜひつくってほしいと思っています。 その場合には、保護者とか教室の、実際に今携わっている人間とか、それから、不登校対応心理の専門家の方たちも含めて、どういう建物が

	いいのかというのをぜひ。この場はそういう場ではないですよ。なので、そこはぜひそういう場所をつくって、検討していただきたいなと思います。 それから、3つ目は、幅広い目で児童・生徒というふうにおっしゃって、今、委員もおっしゃいましたが、今ですら荻窪教室もたまたま4年生からだけでも、小3までの低学年と高学年とは一緒にはならないですよ。一緒に活動ができる場合もあるけれども、基本的に対応するのは無理なので、今ですら、もし来たら別々の時間帯にしている。そうすると、この時間帯とか、この日はあなたたちは来られませんよ。この年齢層の子たちしか来られませんよという、宮前は小学生を受け入れているのですけれども、制限が既に。登校について。 今の天沼を見ていると、たまたまずっと来ている子もいるし、どうしても体調が悪くて、この日は来られるけれどもほかは行かない。そうすると、制限があったりしたら、それだけですごく制約ですよ。いつでも行けるということではないとなるので、取りあえず小中と別の発想で考えていただきたいなというのはすごく思います。 小学生は走り回る場所が欲しいと、この前もありましたけれども、運動能力が全然違うんですよ。小学生と中学生が体育館、たまたま両方使っているところに行くことができたのですが、中学生の動きの中に小学生は怖いよなという気がすごくして、そういうふだんの活動ももちろんですし、そういう運動のことも含めて、別個の教室として考えていただきたいなと、基本的にはすごく思っています。 いつも時間ばかり取ってごめんなさい。よろしくお願ひしたいと思います。
進行役	ありがとうございます。 ほか、ご意見よろしいでしょうか。
委員	感想となりますが2点ございます。ひとつは、今いろいろ意見をおっしゃっていただいた中で、まだ建物の全体像だったり、どこで何を使うかということが確実に決まっていな中で、このような議論を幾らしても多分平行線をたどるのかなという思いがあります。 具体的な建物の設計に関してはこれ以降に検討していくことになると思うのですが、今の議論の中での前提条件として、1つの部屋が1つの使われ方しかないということの中で話が進んでいるように理解しております。 例えば、この場所は視聴覚室ですけれども、この会議以外の使われ方

	もしまし、前回、ほかの小学校、中学校を見学しに行ったときも、いろいろな使われ方の可能性がまだ残されていることもわかり、そうするともっと自由な使い方、スペースや、もちろん面積も、まだ検討の余地はいろいろできるかなとは考えております。 もうひとつは、運動できる場所は体育館もしくは校庭だけではないのが最近の学校なのかなと私は思っていて、校内でも温暖化の状況で、室内でもある程度運動ができる、体を動かせるというスペースもつくられているのが他の自治体での事例でもあります。そういうところも踏まえていけば、解決策はまだ多様にあるのかなと思っていたところでございます。 以上です。
進行役	ありがとうございます。
委員	確かに学校の中でそういう、いろいろ使われるフレキシブルな空間というのはすごく大事だと思うのです。それも天中全体の今後の設計の中で当然ご意見いろいろ出てくると思うのですが、そこに小学校の子どもたちが自由に出入りできるかという、それはかなり難しいと思います。 だから、天中自体の設計については、もちろん今おっしゃったようなこと、これから論議されると思いますが、さっき1時間ぐらいだったら使えるとかおっしゃいましたけれども、私、自分の学校にいた経験からして、時間割をここの時間だけ空けてその教室というのはすごく難しい。時間割の担当の先生はすごいご苦労になると思うのです。 だから、そこら辺のことも含めて、天中全体はこれから論議されると思うのですけれども、今おっしゃった内容を踏まえて、ぜひ議論を進めていただきたいと思います。
進行役	ほかよろしいでしょうか。ございませんか。 担当課からいかがでしょうか。
教育相談担当 課長	様々な貴重なご意見ありがとうございました。 今幾つかお話が挙がった中で、例えば場所的に、今より人数が増えてしまったらという心配のお声も頂きましたが、今日お配りした資料の中でお示しさせていただいた、本区で行っている不登校施策、もちろんさざんかも大切な支援の1つのですけれども、さざんか以外にも、校内別室指導支援事業ですとか、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー等、様々な形で不登校児童・生徒、また傾向の児童・生徒の支援というのを行っておりますので、もちろん今回のさざんかの件も大切に

	皆さんと一緒に考えながら、杉並区の不登校施策全体的に見てよりよく子どもたちに支援が届くようにしていきたいと考えておりますので、例えば子どもの数が増えた場合、それが全てさざんかに行くというのではなく、一人一人が自分で学べる、つながる、そういう場所が得られるような支援を私たちはしっかりしていきたいと考えてございます。 また、場所についてですが、もちろん私もこれから担当課の課長として、先日委員の方からも、他地区の実践ですごくいいよというのを紹介いただきました。残念ながらまだ実際には見に行けていないのですが、これから時間をつくってしっかり他自治体、他地区の実践というのをしっかり学んで、全てをそっくりそのまま真似するというのではなく、ここを使う子どもたちに合った形で進めていきたいなと。 進めていく際には、もちろん保護者や児童・生徒、そして職員の皆様としっかり一緒になって、もしかしたらまだ決まっていないところをご不安にさせてしまっているところもあるかと思うのですが、まだ検討余地があると、まだできることはあると捉えていただいて、一緒に考えていきたいなと思っておりますし、金曜日、ほかにも参加くださった保護者の皆様にはそういう気持ちが伝わっていればいいなと思っています。 本当にしっかりこれから今まで十分ではなかったコミュニケーションを図りながら進めていきたいというのが一番の思いでございます。 以上です。
進行役	ありがとうございます。 それでは、よろしいでしょうか。 では、次に移らせていただきます。先日、学校運営協議会から学校整備課へ意見要望を提出いただきました。この後の改築基本方針にも関係してまいりますので、その内容について説明いただきたいと思います。それでは、よろしくお願いします。
委員	ありがとうございます。 懇談会には天沼中学校ＣＳから出てきております。 お手元の一番最後に参考資料、４枚組になっておりまして、時計を少し戻したような感じになってしまうのですが、我々ＣＳとして、この改築に関してこんなふうに考えていますというアンケートを取りまして、それをベースにまとめたものでございます。 実は、メビウスというのも既に第１回目のときの資料で、今日もお付けしたらよかったのかもしれませんが、色刷りで非常によくまとまって

おりますので、また併せてあとで読んでいただければと思います。

我々は天中ＣＳですから、改築に当たって何らかの考え方、自分たちというよりは関わっている人たちの考え方をまとめておこうと、そういう観点で去年の１０月、１１月にアンケートをやったのです。これは、生徒さん、それから、教職員、保護者、地域ということに、ウェブを使ってアンケートをお願いしたのです。それでまとまったというのが、この後ろにつけたもの。

それから、今年の１月に三校、天小、沓掛小、そして天中と、この連合の学校運営協議会というのがありまして、それが年１回はやるのですが、そのときのテーマをこの天中の改築があるということに関してどう考えるかということをグループに分かれて、これはアンケートというよりは、そのときに出た意見ということになります。

既に今日は事務局から、これまでの意見というものが分類されておりますので、多分にこれに乗っかっているようなもので、またかということにはなるかもしれませんが、ちらちら見ていただければと思います。

２ページ目から、参考資料①というのは生徒の回答、それから②が保護者、教員、地域関係者、それから、先ほどの三校です。

全体で２６０名からのアンケートに対する答えがございました。正直言って圧倒的に生徒さんの回答が実は多いのです。ただ、まとめてみると１枚紙くらいになってしまいまして、生徒ですから一緒に夢を語るとともに、今不便だということを厳しく書いてあります。ですから、新しいところではそこが直るでしょうというようなことです。

それから、夢という点では、中学生になりますと、むしろデザイン感覚、おしゃれ感覚というのでしょうか、あるいは友達と一緒に過ごせるようなスペース、これは既にこの間見たところ、杉並第二小学校や松溪中にももちろんありましたけれども、そういうものの充実。おしゃれなデザイン、これはデザイン・雰囲気に関する希望と、こういったところに出ております。トイレはきれいなものにしてくださいとか、Ｗｉ－Ｆｉをそろえてくださいというような、これは１つの願いですね。

次の２ページ目は、教職員、保護者、地域関係ですが、ここになりますと、保護者の目ということが入りまして、今開放ということを盛んに言われる一方、いろいろな事件もありますし、開放と、それから閉じていること、セキュリティに関しては相当気をつけた建物にしてほしいというのは、真ん中辺に特に書いてございます。

それから、一般に防災に対する配慮、これに対する設計面での対応、

こういう辺りですね。それから、これは1つ特徴的に前回のメビウスにも書いてあるのですが、中学校は3年間ですから、3年で終わってしまうにしても、戻ってこられるような学校、そういうイメージ、これを具現化するのには難しいですが、そういうスペースとか、そういう話になるのだと思います。あと、地域の人と一緒に戻れる場所の設置。

それから、もう1つ非常に重要なのが、工事中の生徒さんの環境への配慮ということです。これは今、来る前に中瀬を見てきたのですが、新校舎の横にプレハブの校舎ができていて、もちろん今日のState of the artという感じなのだろうと思いますが、ボックスの中に皆さん閉じ込められて今学んでいるのだなということは分かりました。これはもちろんやむを得ないことではあるのですが、その世代の何年の人たちは中学校はそういうところで過ごしたという、そこら辺への、みんな耐えてはくださるのでしょうかけれども配慮ということになりますかね、それをこれからどうやっていくのかなと、これがございました。

一番最後の三校ベースというのは、これは日頃関心のあるCS委員であるとか、教職員が中心のワークショップですから、どんどん意見が出まして、2ページにわたって出ておりまして、割と設計面というか、敷地の使い方とか、校舎の在り方とか、そういう辺りの意見が多いです。セキュリティ、防災というものは大きなテーマです。

それから、地域の利用というときの、具体的に何なのかという例証として、当然出てくるのかもしれませんが、テニスコート、図書館、それから温水プール。プールの話というのは、夏だけではなくて、体のためのプール授業というのは生徒にあっても、あってほしいというような、そういう意味で室内で温水プールが必要だというのは、前にも出ていたのですが、プールの問題は1つありそうです。それから、子ども食堂の併設ができるようなスペースとか、カフェとか、これは生徒さんの中にも出ていた意見なのですが、そういうことでございます。

少しアンケートゆえの特徴的な意見というのも出ているかと思えます。天中CSとしては、これは会長の強い願いでもあるのですが、もちろんこういう懇談会の中で代表として意見をももちろん言うわけですが、もう少し学校の町内の地域住民、保護者、PTA、それから支援本部等々の意見交換会をこれとは別に設けて、そういうところで肌身で感じるような、結局はこういうものにまとまった意見にはなるとは思うのですが、もう少し生の声を聞いていただく場があったらどうかと、これを提

	言しております。そんなことが今年、連休中に、担当のＣＳの企画委員がつくりまして、やったものでございます。 以上でございます。
委員	ＣＳは割と早い段階からこういうことを常に人の声を聞いていく、みんなの声を集めていくということを心がけて、実施してきております。 何よりも重要なのは子どもの命を守ることなので、もし万が一の災害のときに子どもたちが、そして地域の方たちが助かるための一助となる学校になってほしい。 それと、長いことさざんか教室がこの学校にはあるのです。ほとんどの生徒さんは、学校に行ったときにさざんかがあるのが当たり前。ただ、さざんかの様子というのは、我々の側と生徒もそんなに触れ合うことがないのですね。これからの、21 世紀の教育の中でどうなっていくか分かりませんが、お子さんたちが学ぶ空間に足を運ぶことを怖がらないで、慣れてきたら人と関わることを怖がらない、そういう空間になってもらえて、すごくすぐさま仲よくはなれなくても、場の共有みたいなことはあってもいいのかなと。 私、本当にわずかだったのですが、ここに校長でいた方が、さざんかの責任者になったときにいらしたときに、私がコーディネーターを始めて間もないときだったので、さざんかの子どもたちにも体験を経験させてあげたいと、退職後の校長からの依頼があって、料理教室をやりたいとおっしゃってくださって、家庭科室をすぐ、あそこの扉を開けたら、今はできるようになっているのですけれども、来られますよと言ったら、その当時は、そこまでも来られないとおっしゃっていた。でも、子どもの気持ちを一番大切にしていなければいけないねと言って、下井草の地域区民センターに場所を借りてやったりとか。 あと、和田と天沼とさざんかの子と一緒に、クレイアニメーションの講座をやったことがあるのです。それをやってすごく自信に思ったのは、子どもたちは自分が作ったクレイ粘土のキャラクターがお互いに認め合えていく段階で、すごく顔が上がるのです。そして、お互いにどう動かそうかという話を始めて、熱が入っていくときに、「何だ、この子たちこうやってみんなと交わって何かをやることを自分がちょっと自信を持てばこんなにできるんだ」ということを経験させていただいたので、私は、天中の一部としてのさざんかをすごく大切にしていきたいし、初めての試みで小学校と中学校、それも１年生と６年生では全然違うというのはよく分かります。ただ、さっき教育相談担当課長もおっし

	やっていましたが、いろいろな段階的な子どもたちの受け止めに教育委員会の施策でしていく中で、その中でさざんかのステップアップを選ぶ子どもたちが天沼を選んでくれたら、天沼の中でさざんかに来てよかったと思ってもらえるような、そういう場づくりがこの校舎改築の中で生まれてくればいいのではないかなと。 今、同じ形で建てるなんて設計事務所も考えていない。ただ、4階まで造れるところと3階までしか造れないところの土地の、公立の中学校として、都会の学校なので狭いのです。設計事務所のホームページを見せていただいたら、広いところにたくさん建てていらっしゃるので、それは夢のようにいろいろなことができるのだけれども、都会の中学校のこの敷地の中で、いかに効果的に敷地を使うかというのは、これからいろいろ示されていく中で、いろいろな解決方法が見えていくのではないかなと思っています。 今本当に何もない真っ白な白紙の中で、心配事を話すのは分かるのですが、でもその心配事を前向きに捉えて、さざんかの子にも、天中の子にも、子どもの成長という、そういうものに寄与してくれるような、後押ししてくれるような校舎改築になってくればいいなと、皆さん方の意見を聞いていて思いました。
委員	今言うてくださったことは、すごいいいことだなと思っていて、不登校の子はいろいろな子がいるので、うちの子どもはフットサルとか、サッカーとか、毎日やっているような元気タイプで、だけれども学校が嫌だみたいな。学校という場所が、学校の教育方針というか、そういうのがあまり好きではないというタイプなので。だから、もし併設されたとしても、このさざんかが楽しいというのが分かっているから、多分うちの子は、中学校の中にあつたとしてもさほど、多分別のところに建つのが一番子どもとしては、うちの子は安心できるけれども、建つたとしても多分そこに通えるかもしれないというのは、今、親の感覚では思っているのですけれども。 それは段階があって、いきなり学校に行けなくなる理由も、いじめとかいろいろ様々で、学校が嫌いとか様々で、それが起きた瞬間に、親としては学校に行けませんとなったときに、教育センターとか、スクールカウンセラーとかに行くのですけれども、結局解決策とかはすぐには出てこなくて、そうすると家しかいるところがなかったりとかしたりしているのですね。 そうすると、ちょっとずつ、例えばいきなりさざんかに行きますとな

	ったときに、いきなり学校の中にあるというのは、ほかのお母さんたちも言っていますけれども、確実に今のさざんかに行きに行くよりは、ハードルは絶対に上がるのですよね。 だから、例えば学校に行けなくなった瞬間とか間もなくて落ち込んでいる子とか、そういう子だけが行ける別の場所があったりして、そこから上がっていけると思ったら、天中に併設されているところに行くとか、そういうやり方もあると思うのですけれども、今この段階で、最初からここに行くとなるのはハードルが、正直、保護者たちは、「あなたはさざんかに行っているのね、私は天中だよ」という感じでなれたのが一番すてきだと思うのです。
委員	お母様の心配はすごくよく分かるのです。今回の会議は、校舎改築のための会議なのです。さざんかの子どもたちのための会議ではなくて、先生もずっとおしゃっていますが、そこのご心配はまた別のところで、私も痛いほど分かりますので、きちんとした形で、お母様同士で解決していく問題や、それから教育委員会の指示や、様々な考えを伺っていく中で解決していくことで、天中の改築は、天中にある施設をどう生かして、全ての子どもたちがよきように過ごせる校舎をいかに前向きにつくれるかということを議論する場なのですね。
委員	そうすると、私は場違いなのかなと思ってしまいます。
委員	これは、天中の敷地内だけで解決しなければいけない問題なのか。例えば、天中の敷地内だけではなくて、例えばこの辺は、いろいろな施設、ウェルファームもあるし、ふらっともあるではないですか。そういうところも、今後きっと力を貸してくれることもあるだろうから、委員が言ったように、まずこういうつくりをしませんかという土台があってから、同じ部屋、今、視聴覚室も使っていますよね。視聴覚室や家庭科室も使って、さざんかの子たち来ているのですよね。ちょっと見ると、すごく楽しそうにやっているのですよね。だから、そういう完全にシャットアウトしてしまう機会にならないように、でも、もちろん会いたくないという配慮もしながらというのは、委員とか、皆さんが多分建築のときにいろいろな意見を出していただけたと思うのです。それで補えないところは、きっと区のお偉い方たちがいろいろなところを貸していただいたりとか、協力していただいたりというサポートが入っていけるということを感じて、ちょっとだけ前向きに話を進めてみませんか。
委員	いつもさざんかのことですごく時間を取って申し訳ないと思っています。

	今おっしゃったように、さざんかどうするかと、本当に特別支援教育等、教育委員会の基本方針の問題なので、そこはいろいろな意見を踏まえて考えていただくということだと思っています。 今CSのこのアンケートを拝見して、子どもたちが言っているのはそうだなと思いながら拝見しましたが、本当は学校に来られない子どもがいない学校が一番大事なのだと思うのですよね。子どもたちが不登校にならないで、どんな子どもたちも居場所がある学校が一番大事で、それは建物も教員も、全てがそれに向けてまず努力する。さざんかがあるからさざんかに不登校の子どもは行けばいいということではなくて、学校という場に本当にいろいろな子どもたちがいられる、そういう学校が一番大事なのだと私は思っています。 なので、今のいろいろな議論も踏まえて、どういう学校というか、校舎というか、建物にするのかということをやむを得ずそのことを考えながら、設計を含めて、ぜひ先生方の意見も含めて、お考えいただきたい。 さざんか教室をどうするかというのは、それは独自に、また別に教室の設計については、本当に関係者で詰めていける場を持っていればと思います。
委員	さざんかにも来られない子だって、見えていない子どもがいっぱいいるというのも知ってほしくて、さざんかに来られているというのは結構いい状態で、外にさえ出られないとか、人に会いたくないとか、そうやってさざんかだって登録している人が60人ぐらいいても、来ている人は大体20人とか。来れていないという人もいる、そういう子どもも行ける場所と考えてほしいというのだけは伝えたいです。
教育相談担当 課長	委員、ありがとうございます。 今、委員がおっしゃったとおり、このさざんかだけでどうこうできるということではないと思うのです。今おっしゃっているように、来られている子はまだよくて、なかなか外に出られない子、おうちの中でも自分の部屋からも出られない、様々な状態というのは子どもによると思いますので、そういった子たちにしっかりと一人一人に合った支援ができるようにというのは、繰り返しになりますが、教育委員会として考えていかなければいけないことです。それは私も強く感じていますので、今委員にお話しいただいたように、さざんかに来る来ないだけではなくて、そのほかに困っている子というのは、もちろん今回の改築の検討懇談会では少し話題がずれますが、教育委員会としてはしっかりそこについても支援をしていくつもりでありますので。

	またそこで気になることがあれば、改めてさざんかで集まったときの意見交換とかで、ぜひこういうことが心配だとか、すぐに実現しなくてもこういうのがあるといいなというお話は前向きにみんなですていきたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願いします。
進行役	ありがとうございました。 それでは、C Sからの意見要望ということについてはこれで終わりにしたいと思います。意見交換会等の要望もありますので、事務局でも開催についてご検討いただければと思います。よろしくお願いします。 続いて、次第の3番に移りたいと思います。「改築基本方針（たたき台）」について、事務局から説明をお願いします。
教育施設計画 推進担当係長	事務局からご説明申し上げます。 資料3「改築基本方針（たたき台）」を御覧ください。 改築基本方針は、これを実現するための配置計画や平面計画と併せて、今後、天沼中学校改築基本設計のまとめというのを年度末にまとめていきます。その後、来年度、庁内の意思決定を受けていく予定でございます。 この改築基本方針ですけれども、ビジョン、目標、取組の3段階でまとめております。この構成は、これまでの学校の改築の際にまとめてきた改築基本方針と同じような3段階のまとめになっております。 次にビジョンでございますけれども、縦に1、2、3と並んでおります。ビジョン1が学校関係です。2番目に環境や安心といったところをまとめております。ビジョンの3番が地域、防災と設定をしました。 ビジョン、目標、取組につきましては、これまでの資料、例えば学校施設整備計画や、今日お示しした学校の意見書、あと、改築についての意見、C Sから頂きました改築の意見・提案について、あとは、学校から頂きました意見等々を参考にしながら、私、担当のほうで作文をしたものでございます。 改築基本方針では、それぞれ大きく捉えておりまして、これまで皆様から具体的な取組、ご意見を頂きましたけれども、そこにはあまり付言せず、それらを包含するような表現を使っております。その点につきましてはご理解いただければと思います。 それぞれの取組等について、簡単に説明させていただきます。 取組Aでございますけれども、これは最も基本的な学習環境の整備という視点で記載しております。 取組Bは、ICT環境、ラーニングセンター機能についてでございます。

す。現在、生徒 1 人 1 台タブレットの時代なので、それにふさわしい機能の充実を図りたいと考えました。

次に、取組 C は、天沼中学校は部活動が盛んであるということが、この間ありましたので、そのことについて取り上げようということで記載をしております。

次に、取組 D は「将来にわたって使い続けられる柔軟性のある学校づくり」という目標にぶら下がっているものでございます。

取組 D では、教育内容は方法の進化、個別対応、学級規模の変化など、様々な要因に対応していく必要があるということを記載しております。

取組 E は、施設の長期利用についてです。80 年を目標としておりますので、そのことを記載しております。

取組 G でございますけれども、学校を支えていただいている P T A や学校支援本部等の活動を支える施設についてというところを記載しております。

取組 F と取組 G については「教職員や支援者が活動しやすい学校づくり」という目標にぶら下がる取組になっております。

取組 H でございます。こちらはビジョンの 2 にぶら下がる目標Ⅳ「自然環境に配慮し、周辺環境と調和した学校づくり」というところにぶら下がるものでございます。

取組 H は、自然環境に関連した内容を入れたいと考えました。

そして、取組 I ですけれども、天沼中学校は住宅に囲まれた環境であることから、それらとの調和ということを取り入れて、そのことを記載しようと思っております。

取組 J でございます。こちらは、目標 V にぶら下がるものです。「安全・安心で居心地の良い生活環境としての学校づくり」というところにぶら下げております。

取組 J は「生徒が安心して友人や教員等と集い過ごせるスペースの配置」。こちらについては、生徒同士や生徒と教員というのが活発に情報交換をしてできる空間、今の校舎では昇降口の椅子や廊下のベンチのようなもの、そういったものが新校舎でもできるといいなという思いで記載してございます。

取組 K です。こちらはさざんかステップアップ教室のことを記載させていただきました。「利用者が心理的に安心できる『さざんかステップアップ教室』の整備」と記載させていただきました。

取組 L でございます。こちらにつきましては、生徒や地域の方々など、

	施設利用者が安全・安心に過ごせるような配置計画についてということで記載させていただきます。 次に、ビジョンの3にぶら下がる目標VI「学校の伝統と特色を生かし、地域に支えられ、地域の活動を支援する学校づくり」という目標です。 取組Mは、天沼中学校の伝統と歴史を後輩や地域に継承していくような取組というのを入れられたらと思いました。 取組Nでございますけれども、こちらは天沼中学校が地域の核となるような施設というのを目指すというところを表現したいなと思って入れております。 取組Oでございますけれども、地域開放のことを入れたいと思い、記載しております。ただ、ユニバーサルデザインやセキュリティというところは目標Vのほうがよかったかもしれないなと思いました。 最後、目標VII「地域の防災拠点としての十分な機能を備えた施設」ということで、取組PとQは防災に関しての記載でございます。取組Pについては震災救済所のこと、取組Qは災害に強い建物、設備のことを整理したいと思ったのですが、若干記載内容が重なっているような印象もあります。 以上、まだまだ粗い部分がありますけれども、委員の皆様のご意見を頂きながら、よりよい改築基本方針に修正していけたらいいなと思っております。 私からは以上でございます。
進行役	ありがとうございます。 ただいま事務局から改築基本方針の説明がございました。第1回の懇談会での意見やアンケートなどを踏まえてたたき台を作成したということですが、ここから委員の皆様の意見でさらにブラッシュアップしていきたいと思います。何かご意見などがある方は挙手をお願いいたします。 まずはちょっと見ていただいて、何かあればお願いします。 では、委員、お願いします。
委員	1つだけ、このたたき台の中で考慮していただきたいことがありまして、それは防災上の安全ということなのですが、最近ということはないのですが、Jアラートの試験放送というのが年に4回、国としても推奨というか、しているわけですが、これはJアラートですよというのは一生懸命宣伝はしているのですが、Jアラートが鳴ったときにどうするのかというと、頑丈な建物の中に避難をしてくださいという

	考えなのです。 生徒を守るという観点からしたら、今後、地震の確率よりも、Jアラートが本当に鳴る確率のほうが私は高いと思うのです、今の社会情勢、世界情勢から言うと。そのときに、生徒はどこに避難するのか。具体的には多分ないと思うのです。 別にシェルターを造ってくれということではないのですけれども、せっかく新しい建物を造るわけですから、そういうスペースの、ここだったらそこに使えますよというような設計上の考慮が必要だろうと思うのです。これが入っていないのですよね。これは入れるべきだろうと私は思うのです。 それともう1つ、この進め方なのですが、一般的な個人で住宅を建てるときには、設計士さんにいろいろと、こういうものが欲しいとか、ああいう施設が欲しいと言うわけですね。それに基づいてたたき台というか、設計図を作ってくださいなのですが、そういう形は必要だろうと思うのです。今、この段階で、今日設計の方がいらしていますけれども、多分図面は書けないと思うのです。 ですから、もう少し具体的に、例えば、杉二小と松溪中学校を見に行きました。そういったところで参考にしたいなという施設はあったわけですね。そういう意見というのをあれすると、設計する方たちにはイメージが湧いてくるのではないかなと思うのです。ですから、そういう議論というのも必要だと思うのです。 例えば、具体的に言うと、杉二小に行ったときに、入り口のところ、階段になっていましたよね。ピロティといいますか、吹き抜けになっていました。あれは残念だなと思ったのが、あれは必要なのです、昇降口のところに。ところが、昇降口のところがピロティになっていない。雨が降ったり何かあったときに、傘を差したまま雨の当たらないところに入れるのはいいのですけれども、肝心の昇降口に入るときにまた濡れてしまいそうなので、ですから、そういう濡れずに昇降口に入れるようなピロティを造ってくださいとか、そういう具体的なことを少しあれしていくのも1つではないかなと思うのですが。 以上です。
進行役	事務局からいかがでしょうか。
教育施設計画推進担当係長	ありがとうございます。委員のご指摘の部分、確かにおっしゃるとおりだと思います。 取組の具体的なことになると思うのですけれども、その具体的な部分

	というのをこの後の配置計画、基本設計、実施設計の中で取り込んでいける内容かと思います。その部分の議論というのも必要ではないかというご要望かと思います。その辺の意見につきましては、これまでいろいろ意見を頂いたところですので、まずそこが包含できるような表現をこの改築基本方針に掲載をしていきたいと思っております。 具体的な取組については、基本設計、実施設計の中で反映していくところでございますけれども、建物の基本的な諸元というのでしょうか、こういう部屋が必要だということにつきましては、既に設計事務所とも情報共有しておるところで、この後、建物の標準建物面積等について簡単にお話ししますけれども、そこを基にしながら、ベースはつくっていきます。その中で、次の段階として、今、委員ほか、皆様からもらった意見の中のご要望というのを可能な限り実現していくというスタンスで考えております。
進行役	よろしいでしょうか。 今懇談会の開催予定を見てみましたが、8月、9月、11月のところで配置案についてお話が出るという計画になっております。本日、この基本方針の中では、先ほどのJアラートのようにここの中に取りこぼしのようなものがあるかどうかということについて確認していただいて、後々配置案に意見を反映させていただければと思います。 ほかに、今回の基本方針について、何かご意見ある方。
委員	ありがとうございます。欠席で大変失礼いたしました。 前のご意見と少し関連するのですが、そういう取りこぼしの可能性のある意見を探すというアプローチも1つの手法かなという点では賛同いたします。 もう1つ、こういうアプローチもあるかなと思ったことがあります。今日この基本方針のたたき台が示されて、ビジョンと目標と取組というものが、この表に表されていました。ただ、私には、どの取組ないしどの目標もフラットに考えられているとしか受け取れないのです。これらに書かれていることというのは、すべからくどの学校にも、あるいはどの教育施設にも必要なことなのではとも想像します。そうしたときに、「天中はこの後どういう特色を持つ学校になるのか」とか、あるいは、「地域の特徴をどうフィードバックするか」という議論も当然起こり得ると思うのです。 少なくとも今示されているこの資料3の中で、例えば天沼の地域についてどう読み解いてどういう学校を組み立てたらいいたろうというこ

	とは、今は記載がないわけですし、建物的に例えばこういう取組をした いからこういう特色を持ってほしいという意思も、今のところあまり感 じられません。 行政としてどういうところに重点を置きたいのかということを、例え ば教育の基本計画とか基本方針みたいなものと絡めてどうなのかとか、 天沼の地域を読み解くとどうなのかということの意思を持たなければ いけないと思うのです。それが、7月、8月、11月にかかってくる話題 になるかとは思います。 ですから、今日の段階で、ないし、次回、次々回以降でいいのかもしれ ませんが、この基本方針の優先順位や、どこに強い意志を持つのかと いうことは、皆さんからご意見いただけるといいのかなと思いました。 その辺り、今の時点で杉並区としては何かありますでしょうか。
進行役	事務局からいかがでしょうか。 司会から失礼します。先ほどのC Sからのアンケート結果というところ が、まずそこについて考えていただきたい部分ではあるので、今おっ しゃっていただいたように、今後のところに出てくるものかなと思いな がら私も聞いていた部分もあったのですけれども、すみません、話をさ えぎってしまって、よろしくお願いいたします。
教育施設計画 推進担当係長	事務局でございます。 教育委員会といたしましては、ベースとなるのは、杉並区立学校施設 整備計画が基本になると考えております。必ず整備しなければいけない 部屋というのを決めておりますので、そこは必ず整備をしていきます。 ここに天沼中学校の独自性をプラスするとすればどういったところ かというところを今後、基本設計等で反映をしていくというところでご ざいますが、基本は必ずつくらなければいけないところをつくると、そ こと、いろいろとご要望を頂いておりますけれども、今後、杉並区は学 校の改築を多く行う必要がありますので、財政的な部分でコストを抑え なければいけないというところも事情としてはありますので、どこまで 基本のところプラスしてご要望を盛り込んでいけるのかというところ の調整になるのかなと思います。
進行役	よろしいでしょうか。
委員	回答は理解しました。 例えば、取組のKとかLとか、前半で議論があった、さざんかステッ プアップ教室というものが、一緒に考えるということ自体は特色だと思 いますけれども、それに対して例えば地域にどう開いていくのかとか、そ

	ういったことをこれから議論していくと理解すればいいわけですね。
教育施設計画 推進担当係長	ハードの面で配慮すべき事項と運用でカバーすべき事項というのが、 また考えられるかなと思います。
委員	分かりました。
進行役	では、委員、お願いします。
委員	ちょうど天中のＣＳでは、夏休みに教職員と保護者の方と、それから、地域学校支援本部と、それから我々ＣＳが、４者で研修会を行うのです。そのときに、実は、学校支援課長と、それから、教育長をお招きして、未来の教育ということについてみんなでディスカッションをしてみようと思っているのです。今まさしく思ったのは、天中らしさとか、天中が今後何を大切にしていって 21 世紀の教育を実施していくのかみたいなこと、あと部活の問題も、単にかつての 20 世紀のように熱心であるということのひとくくりではなく、杉並が目指すこれからの子どもたちの運動の在り方みたいなことも話し合いたいのです。 部活に捉われることなく、子どもたち自体が広く、さっきさざんかのお母様がすごくいいことを言っていたのは、どんな立場の子でもいろいろな機会があって、サッカーが強い子しかサッカーができないとかではなく、いろいろな機会があったらいいねというのがこれからの杉並が与えてくれるベースの部分で打ち出されてきている部分だと思うので、そういう、それは私の考えですから、皆様方はどう思い、これからの天中は子どもたちの体力づくりとか、学びとか、いろいろな意味においてどうしていくのかということをして 7 月 24 日の 4 者研修で、天沼らしさを追求したワークショップができればなと思っております。 次のときに、ここにもご報告できたらいいかなと思っております。 以上です。
進行役	委員、お願いします。
委員	委員から本当にすばらしい意見が出ました。我々ＣＳがやろうとしている取り組みをおっしゃっていただきました。ここでの私からの発言としては、事務局のたたき台を拝見しましたら、どこかで見たことがあるなと思ひまして、勉強不足だったので資料を持ってこなかったのですが、でも、神明のときも同じようなものをつくられているわけですね。だから、中瀬も多分あるのだと思うのです。 この際、こういうのを並べてみて、どうしても譲れないところというか、公立の学校ですから、必ずスタンダードを設けなければいけないことも事実です。一方、どれだけ特色というのでしょうか、今度は教育長

	までいっちゃうわけですから、なかなか面白いプロセスにはなるのですが、スタンダードと天中タイプというものと比較して、こういうところを盛り込んだというのを少しあらわにしてしまったほうがいいのではないかなという気がするのですね。 これは大体言葉がちょっと違うだけで、神明も同じなのですよ。あそこは隣に神社がありますし、そういうものを環境と結びつけているようにも思いますし、それから、ビジョン1のところは教育の本丸ですから、この部分は基本的にあるのだと思うのです。一番下のなかなか悩ましいのが地域との関係というところ、何度も言っていて、自分でも非常に難しい問題だなと思って考えているところなのですが、いつもこの地域のコミュニティの核となるということを書かれるのですが、内実をどうしたらいいのかなというのを思いました。 ただ、後のほうは私の意見なのですが、プロセスとして、たたき台のこういう基本方針をつくるのはいいことだと思うのです。それと、それぞれの学校との対比というのでしょうか、言葉で入れましたというよりは、一方に天中というものはこう考えているのだというものが出てくれば、それが対比してきちんとここに盛り込みましたというのがあったほうがいいのかなと、これは全くの感想なのですが、そう思いました。よろしくお願いします。
進行役	ありがとうございます。 ほか、いかがでしょうか。 では、委員、お願いします。
委員	いろいろな思いがこの意見のところにまとまっていて、どんな学校になるのだろうとすごく楽しみにしているのですがけれども、今さらになってすごく不安になった点がありまして、杉並区の方にお聞きしたいというよりは、いろいろな要望、アンケートもそうなのですが、今もそれを出すだけ出したという状態で、それが同じような項目の中で方向がずれていったりとか。 例えば、地域ということが先ほどから出ているのですがけれども、どこまで地域の核となるという意味を示しているのかということです。プールの開放が例えば夜の時間帯全部とか、そんなふうであればきっと設計の方は出入り口をいろいろ工夫されるでしょうし、ただ、まだ私の、地域ではなくて保護者の目線からすると、今度天沼中学校の生徒ファーストと考えてほしいから、そこまで開放されては困る。夏休みの1週間ぐらい開放がいいのだけれどもなと思ったりなど、杉並区というよりは

	は、地域の保護者、PTA、あと、学校の考えなどの、その地域の核と言っているその部分の目線合わせをしないと、設計される方はどうやって設計するのだろうか、私は不安になったのですけれども。 そのところが、これは杉並区の方への質問というよりかは、目線がどういったところで合っているのか、それともこれは今後のお話になるのか、お願いいたします。
進行役	ありがとうございます。 今おっしゃったような部分というのは、もうおっしゃるとおり、ある程度今後の話なのかなと思っています。今までのところで様々なご意見を出していただいて、様々な場所を見てというところで、それらを矛盾させない形で包括的に出しているのがこのたたき台であって、その中で学校としては、先ほども出てきたようにここだけは必ずつくらなければいけないという部分があると思います。それを設計した上でどういう活用ができるのかと考えていくのか。それとも活用ありきで設計を考えていくのか、ここの部分については恐らく平面図、9月ぐらいのところから本格的に反映されていくのかなと、私は思っているのですけれども、事務局からはいかがでしょうか。
教育施設計画推進担当係長	副校長先生のご認識と事務局も同じでございます。今後、標準建物面積に照らして建物を設計していくわけですが、その中で配置等を考えたり、あと、部屋数、部屋の用途を考えていく中で、具体的にどう運用していくのかというところを想像しながら配置を変えていったりしますので、その時点で具体的な取組というのがまた議論されてくるものと思います。
進行役	ありがとうございます。 ほか、いかがでしょうか。 委員、お願いします。
委員	たびたび失礼します。 このたたき台の資料に関して、先ほど委員からのお話と重なるところもあるのですけれども、ビジョン、目標、取組とあるのですが、ビジョンと目標は納得するところです。しかし、これらの取組の17項目が並列になり過ぎていて、結局どれを大事にするかが、ここからだ読み取りにくいと思います。それが委員の皆様の不安だったり、疑問だったり、提案だったり、いろいろなことにつながってくるのかなと思います。 これはすごく難しいかもしれないのですけれども、この17の取組すべてが独立しているわけではないのですね。きっと重なるところもあっ

	たり、どれかがベースにありその上に成り立つものがあったり、もしくは何かと何かの関係していたりすることもあると想像いたします。そうすると、これらを構造化できるのかどうかももちろん検討次第なのですが、並列で並べるよりも、まずこの部分は第一優先で考えていますと明確にしたり、その次の優先順位を決めていかないと、今後建物の設計をする際にも、何を優先するのかというところで、また一から今のような議論が出てくるのかなと思います。 この取組の中に、たたき台とは言いつつも加えられていない情報がありまして、例えば予算とか日程、土地など、制限があるものが確実にあります。まずそこを踏まえた上での、それをもっとよりよくするためにはどうするのかという議論が必要なのかなとも思っていました。 以上でございます。
進行役	ありがとうございます。 では、委員、お願いします。
委員	ビジョン、目標、取組と見たときに、どれもこれも本当に大事なものだと思ったことは確かなのですが、ちょっと脱線するかもしれないのですが、根本的にあるのが、今、委員がおっしゃったみたいに敷地のことなのです。この住宅街の中で、道が狭い。その中に建っている学校で、Jアラートはミサイルが飛んだと発表されたらもうそれで終わりぐらいだろうと思うのですが、とにかく人的災害によるか、天災だとか、それから、都心で起こる火災旋風が来たらどうするかということを考えたときに、命というものが一番大事なかなと。 様々な、私もこの項目は大事だと思うのですが、予算はきついのは分かっているのですが、この限られた条件の中で、杉二とは全然違う、どこにも逃げ場がないというところでどういう学校をつくるのか。 例えば、逃げ場がないのだったら、それこそシェルターを考えてもいくらかいものが必要ではないかなと。一番ボトムラインをどこに置かかというところが、これも気になる、あれも気になると考えていたのだけれども、この今の現状、それから、これからどんどんいろいろなことが起こってくるという予想されるような状況において、そのところが私はすごく気になるのです。 おとし話みたいな設計ではなくて、子どもたちを怖がらせてはいけないのだけれども、命を守るため。逃げ込んでしまったら、ハグカードを作ったときに、中学校の子どもたちの結論が「ここは逃げては駄目なと

	ころだね」という、それが「いいえ、こんな場所だけれども、だからゆえに区はものすごいお金をかけて、絶対何かあったときに、ここに逃げ込んだら家族が全部助かるよ」というものを造ったというくらいのものが欲しいなと思いました。
進行役	ありがとうございます。 ほか、たたき台に盛り込みたい内容等についていかがでしょうか。よろしいですか。 では、次回の懇談会で基本方針については修正案を確認したいと思いますので、よろしくお願いいたします。 それでは、次の議事に移ります。次第の４番「改築規模及び諸元について」、事務局から説明をお願いします。
教育施設計画 推進担当係長	それでは、資料４を御覧ください。「天沼中学校の生徒数・学級数の推移について」という、Ａ４の横長の資料でございます。 こちらは令和１６年度までの推計値を表示しております。令和７年度につきましては、実数の数値を掲載しております。令和８年度以降が推計数値となっております。 こちら御覧いただきますと、令和１６年度、生徒数が２９６名となっております。クラス数なのですが、１学級３５人で計算をしております。こちらなのですけれども、先日東京都から通知がありまして、令和８年度の中学１年生から３５人学級を導入する旨の通知がありました。そこをベースにして、１クラス３５人ということで計算しております。 令和１６年度は１０学級となっておりますけれども、３年生が１０４名ということで、２名増えると４学級になります。４学級になると、合計１１学級ということで、１１学級になる可能性があると考えました。 なので、新校舎の効果や私立への進学率など、上振れ要素も考えまして、１学年４学級分の普通教室、１２学級を整備するという考えでいきたいと考えております。 なお、１２学級を超える場合でも、普通学級と同様のしつらえを事前にしました転用可能な教室、例えば英語教室等を３教室整備する考えでおります。 次に、資料５を御覧ください。「中学校の標準建物面積」ですけれども、中学校で１２学級の場合には７、５００平米という建物になります。用途区分につきましては表のとおりでございます。 詳細につきましては、「杉並区立学校施設整備計画」という冊子があるのでございますけれども、そちらの１９ページに記載してございます。

	改築に当たりましては、標準建物面積一覧にある諸室を基本としますが、この表で漏れてしまっている部屋とか、その他事情で必要な部屋というのは、7,500 平米の中で調整していくことになります。 そういった工夫については、校舎の配置や平面計画等、そういった時点で検討をしていきます。 あと、プールにつきましては、現在屋外プールを想定して、この表は作成しております。屋外プールになった場合には、床面積が算入しないことになっております。 簡単でございますが、以上でございます。
進行役	ありがとうございます。 ただいまの説明に、意見や質問のある方は挙手をお願いいたします。 では、委員、お願いします。
委員	1 つ、プールは屋外を想定しているのですよね。屋外プールは、今後必要ですか。というのは、今水道代も高くなっていますよね。この暑さというか、要するに費用対効果から考えると、ものすごいお荷物になってくるのではないかなと思うのです。これがもしなければ、学校の運営もかなり楽に、楽というとおかしいですけども、建設コストだとか考えると。 話はあれですけども、今日テレビを見ていたら、小学校の生徒で泳げない子どもたちが増えているというようなことが出てくるのです。では、中学校というのは、プールは何を目標というか、何だろうと思うのです。泳げるようになるのだったら、小学校だけでいいわけですよね。泳ぎ記録を伸ばすのだったら、中学かなと思いますけれども、そういうことから言うと考える余地が。 特にこれから、中学校へ、というのは、今は学区になっていますけれども、それでもこれからの時代というのは学校を選ぶ時代になる。選ばれるというか。そのときに、意外とプールがないから行きたいというお子さんが意外といるのです。私立だとそうなのですよ。 だから、必ずしもプールが必要なかどうかというのは、これは私の個人的な意見ですからあれですけども、検討してみるあれはあるのではないかなと思ひまして、いろいろ申し上げて申し訳ありません。 以上です。
進行役	ありがとうございます。 ほか、ご意見いかがでしょうか。 では、委員、お願いします。

委員	この中で、給食設備についてお伺いします。 松溪中だったか、見学に行ったときに、我々が会議した後、あれは何か、カフェというのか、ビュッフェというのか、社食というのか、あの給食形式は杉並区でどのくらい実施されているかというのをまず知りたいのと、この施設の基本計画、改築計画の中には、校舎のうちの特別支援室というのは管理諸室に入るのか、分からないことがあって。 私は、実は、たたき台、さっきの基本方針の中のビジョン2の目標Vの中の取組でいくとJ「生徒が安心して友人や教職員と集い過ごせるスペース」という意思になるのかなと。 私の経験では、昼を食べるときにみんなとわいわいやるのが常だったのだけれども、その中に先生の負担がどうなるのか知りませんが、先生も入って、担任の先生だけではなくて、いろいろな先生と話せる機会があったらなど。松溪中の効果を聞いてみたいぐらいなのですが。ああいのを設計するのには、この基本方針にどう関係するのか。 また、杉並区内でああいうのを実施しているのは何校ぐらいあるのか、教えていただければありがたいです。よろしくお願いします。 どなたか、適切な方、知っている方、おられましたら。
教育施設計画 推進担当係長	杉並区内の学校でランチルームを設けている学校は、松溪中学校、井草中学校の2校が現在あって、あと、現在建築中の富士見丘中学校、この3校にランチルームがあります。
委員	評判は聞いていますか。つくった後。
教育施設計画 推進担当係長	松溪中学校は、副校長先生からお聞きしたところによりますと、生徒は給食のために移動するのが面倒くさいと言っている子もいるそうです。というのは聞いたことがあります。 ただ、私たち当時設計したときには、委員おっしゃるとおり、生徒同士、あるいは先輩、後輩が給食を食べながら情報交換ができたり、縦の関係がそこで育まれるという効果も期待していたところです。ただ、そこはあまり効果というのは確かめられていないというのは、実感としてはあります。
委員	この杉並区の計画の中には、基本的にはその考えは入っていないですね。
教育施設計画 推進担当係長	ランチルームは、現在整備する考えはなくなっていました。
委員	なくなっていました。中止する方向ということ？
教育施設計画	ランチルームは整備せず、給食は各部屋で食べるという方針に変更し

推進担当係長	ております。
委員	そうなのですか。では、今みんなで話し合うのに、その可能性はゼロと 思っていていいですか。
教育施設計画 推進担当係長	あとは運用で、どこかで一堂に会してどこかで食べるかということは 考えられますが、部屋としてランチ専用のスペースというのは想定はし ていないです。
委員	想定はしていないのは分かるのだけれども、それを想定を超えて、設 計することは可能かどうかという質問です。
教育施設計画 推進担当係長	可能か不可能かでいえば、可能性はありますが。
委員	分かりました。ありがとうございます。
学校整備課長	資料5に7,500平米とございますが、先ほど他の委員からも予算とい うお話がありましたけれども、金額はインフレなどでいろいろ変わります ので予算を決めるという形ではなくて、面積にある程度の基準を決め て、その中でしっかりやっていこうと取り組んでいます。 学校の改築というのが、天中だけではなくて最近は本当に目白押し で、年2校ぐらいずつのペースで建て替えをしていかなければいけない 時代になっていて、非常に難しい状況があります。施設の規模というの をどう抑えるかと、私も先週議会でしたけれども、その点非常に厳しく 言われておりまして。 ランチルームというのは、専用で造るという考え方ではなくて、富士 見丘中もそうなのですけれども、2教室分ぐらいの多目的室をランチル ームとしても使うというような運用の考え方として、その中でやってい くという考え方ですので、資料5にあるのとは別にランチルームを新た に造るということは、なかなか今の時代難しいだろうと考えています。
委員	承知しました。ありがとうございます。
進行役	ありがとうございました。 ほか、ご意見いかがでしょうか。 では、委員、お願いします。
委員	単純な質問なのですけれども、プールを屋内に、地下に例えば造った 場合、そこから来る湿度の管理とか、それからプールをオープンにして しまった場合、それこそ天中ファーストだといいいのですけれども、あま りにも大きくしてしまった場合、水質管理とか、普通屋外のプールだっ たら全部先生がチェックしたりと、相当負担ですよ。それを屋内にし てしまって、かつある程度オープンにした場合、その辺はどうなるか。

	湿度の問題と、先生方の負担というのはどんどん減らしていかなければいけないと思うので、そこはどうなのかなと気になりました。天小の湿度があまりにひどいので。
委員	阿佐中は、屋上に室内でプールありますよね。
学校整備課長	阿佐中は屋上に、屋根をつけて、高円寺学園もそうなのですが、温水ではなくて、日光が入りますので、屋根をつけると保温性も増すので、6月から10月ぐらいまで長く使えるという形ですが、屋内の温水プールだと、杉十小です。 やりようはもちろんありますが、屋内温水プールですと年間使えますので、当然地域の方にも開放すると、運営事業者の方にも常時いてもらってという形になりますが、これはなかなか整備や運営のコストが屋外の普通のプールよりも20倍くらいかかるというところも、建設費、運営費も含めて考えますと、なかなか天中で屋内温水プールというのは考えづらいかなと。 先ほど委員からもありましたが、中学校においても、今、学習指導要領上、少なくとも中学1、2年生については水泳の実技授業は必修という形で、3年生についてもプールがあれば区内でも必ずやっているという状況を踏まえて、天中だけでなくいいのかということにはなりますので、そう考えると屋外のプールというのは、今の段階では必要なのかなとは、我々としては思っています。
進行役	ありがとうございます。 ほか、いかがでしょうか。よろしいですか。 では、予定した議事は以上になります。すみません。司会の不手際で遅くなってしまいました。事務局から連絡事項についてお願いいたします。
教育施設計画推進担当係長	事務連絡です。 1点目は、本日の会議録でございます。約1か月後を目途に、皆様に議事録の案をお送りいたしますので、ご確認をお願いいたします。修正があればご連絡いただきたいと思います。 2点目でございます。「ご感想シート」についてでございます。感想のほか、本日十分に発言できなかった部分など、ご記入いただければ幸いです。記載が終わった用紙につきましては、お帰りの際に出口で職員にお渡しくださいますようお願いいたします。後日提出される場合には返信用封筒をお渡ししますので、職員にお声がけください。 3番目です。本日は、この後、さざんかステップアップ教室の見学を

	予定しております。お時間のある方はぜひご参加ください。 最後に次回以降の日程をお知らせいたします。 次回、第4回でございますけれども、7月31日木曜日の午前10時から正午を予定しております。会場は本日と同じ視聴覚室でございます。 第5回でございますけれども、9月2日火曜日、午後2時から午後4時まで。会場は同じく視聴覚室でございます。 現在確定している日程は以上でございます。第6回以降、決まりましたら、改めてお知らせをいたします。 あと、第4回、第5回につきましては、後日、正式な開催通知をお送りいたします。どうぞよろしくお願いいたします。 事務局からは以上でございます。
進行役	ありがとうございます。 それでは、最後に学校整備・支援担当部長よりご挨拶をお願いいたします。
学校整備・支援 担当部長	長時間にわたりどうもありがとうございました。 本日議論いただいて、いろいろご意見を頂きました。そちらの意見はきちんとこちらのほうで取りまとめて、整理をして、今後の改築基本方針に反映させていきたいと思っております。 ただ、今、議論の中でもありましたけれども、皆さんのご意向を全部酌み取るということはなかなか厳しいというのがございます。それは財政的な事情だとか、この老朽化した校舎を改築するのは、すごく校舎を建てた時期が集中しているということで、今、本当にラッシュではないですけれども、年何校かという形で改築しなければならないという事情があります。 そうした中でも、基本方針、今日たたきを出させていただきましたけれども、その中にいかに、議論にもありました天中らしさというのかね、特色、それから生徒を中心に教育の、学校はそういった場ですから、そういったところを中心に据えた方針をまとめていく必要があるのかなと思っています。 その中に、どれだけそういう内容を盛り込めて、諸室の配置についても、なかなか数を増やしていくということは、先ほど申し上げたような難しい中では、同じ教室を造るにしても、どういう形にすればその方針に合った機能を満たせるのかということを議論する場がまさにこの改築懇談会のあるのかなと思っておりますので、非常にいろいろ制約を与えて申し訳ないかもしれませんが、皆さんの意見を頂きなが

	ら、工夫を重ねていって、改築の方針をまとめて、今後の改築に結びつけていければと思っておりますので、ぜひご協力をこれからもよろしくお願いしたいと思います。本日はどうもありがとうございました。
進行役	ありがとうございました。 それでは、これをもちまして、第3回天沼中学校校舎改築検討懇談会を閉会いたします。ありがとうございました。